

【中央設計技術研究所社長 中辻 英二氏 ワークライフバランス推進 女性技術者育成へ 2020年に売上30億目標】

中央設計技術研究所 社長

中辻 英二氏



なかつじ・えいじ 富山県立技術短期大学（現富山県立大学）衛生工学科卒業、1980年入社。以来、技術畑一筋に歩み、2011年10月に同社5代目社長に就任。富山県砺波市出身、55歳。

Front Line ～業界の最前線～

ワークライフ バランス推進 女性技術者育成へ

建設コンサルタント業界で、技術者の女性比率が全国トップといわれる中央設計技術研究所（金沢市）。09年に石川県のワークライフバランス優良企業として知事表彰を受賞。さらに、石川労働局から15年初の「子育てサポート企業」として10年に続いて2回目の認定を受けるなど、担い手不足が叫ばれている建設業界にあって、日頃から女性が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる中辻英二社長を訪ねた。

全社員145人中、女性が約4割を占める。そのほとんどが技術系の社員で、技術者不足が深刻となっている建設業界にあって、女性登用のモデルケースといえる。子育て世代も多いことから、学校行事などで有給を取得しやすいように、半日や時間単位での有給休暇制度を導入。「女性はもろい」と、男性の社員であっても子育て支援ができるように配慮したことで、取得率もだんだん上昇している」と、働きやすい職場改善に努力。さらに、昨年から毎週水曜日を「残業デー」とする取り組みも開始し、ワークライフバランスを積極的に推奨する。

「2020年に売上30億目標」

建築や土木構造物に比べて、『水』専門の大学は少ない。そのため、「基礎的な部分は男性も女性も変わらず、『水』を理解するまでには、どうしても2、3年の経験が必要。その期間に能力や適性を見極めながら、じっくりと技術者を育てている」と語る。中期経営計画では、2020年に売上高30億円を目標に定めており、「その達成には、社員200人ぐらいを想定しており、男女問わず技術者を増やしていかなければならない」と育成に力を注ぐ。同社は、1947年に創業以来、水と環境のコンサルタントとして専門技術の強みを活かし、営業エリアは創業地の石川県を中心に、富山、福井、新潟、岐阜の隣県、さらには関東圏、関西圏に広がっている。

13年度の東京都下水道局の受注高ランキングでは堂々の2位にランクイン。近年、インフラの老朽化が課題となるなかで、東京都では、下水道の再構築として老朽管更新及び耐震化が本格化している。「その波が地方にも、あと10年もするとやって来る。石川県でも平成元年から5年の間に供用した施設がほとんどであり、その更新が一挙に到来する」と指摘する。

現在、珠洲市の浄化センターでバイオマスメタン発酵施設の管理運営を担っており、「これからは地方創生がキーワード。人口減少で自治体も予算や職員数の減少で住民サービスの維持が困難な時代を迎えることから、上下水道における事業経営面でもお役に立ちたい」と、さらなる地域への貢献を目指す。